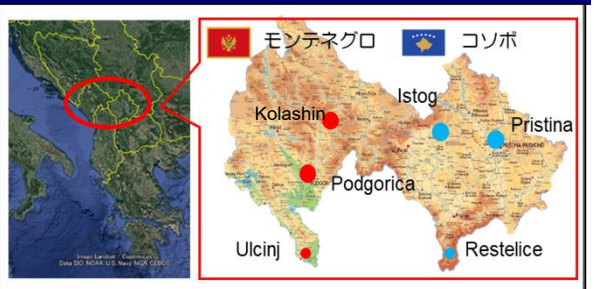
Vol. 11 Sep 2026

NFFIS & Eco-DRR Newsletter

Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction through National Forest Fire Information System (NFFIS) and Eco-DRR
Mar 2021 - Oct 2026

国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

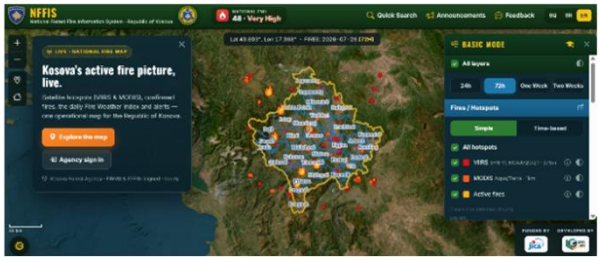
本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS 及び生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR） の導入を通じて強化されることです。
最終号となる Vol.11では、2026年2月-9月の活動報告をいたします。



コソボ、モンテネグロの首都とプロジェクトサイトの位置

新機能による NFFIS の強化

NFFISの機能強化により、災害関連情報の収集・処理・伝達プロセスが統合され、より包括的な情報管理が可能となりました。モニタリング、早期警戒、リスク情報を相互に連携させることで、行政機関と市民双方への効果的な支援を実現しています。新たにスマートフォン向けユーザーインターフェースを最適化し、発生中の火災状況、気象情報、警報情報へのアクセス性が大幅に向上しました。さらに、登録ユーザー向けの自動アラート（プッシュ通知）機能を実装し、災害リスクや火災発生を検知した際に必要な情報を迅速かつ的確に届ける体制を整えました。



NFFIS インターフェース

プロジェクト成果の概要

本プロジェクトを通じて、コソボにおける森林火災の予防・備えおよび災害リスク削減（DRR）の能力は大幅に向上しました。主な成果として、機能拡充と運用能力強化を図った「国家森林火災情報システム（NFFIS）」の開発・更新、Eco-DRR活動の展開、住民啓発およびコミュニティ参加プログラムの実施、技術研修および本邦・第三国研修の実施が挙げられます。さらに、関係機関が連携した効果的な災害リスク管理を支える標準作業手順書（SOP）、各種ガイドライン、技術ツールの策定・整備を完了しました。



（コソボ）プロジェクトマネージャーからのメッセージ

「本JICAプロジェクトは、コソボにおける災害リスク削減および緊急事態管理の体制を抜本的に強化する極めて有意義な機会となりました。日本の専門的知見とコソボ関係機関の知見・経験を融合させることで、単なる新技術の導入にとどまらず、将来にわたって自立的・持続的に発展可能な実践的能力の構築を実現しました。知識、時間、そして熱意を注いでくださったJICA、日本の専門家の皆様、ならびに関係機関・パートナーの皆様に心より感謝申し上げます。本協力の真価は、構築されたシステムや文書だけでなく、関係者間で培われた高度な専門知識と強固な信頼関係にあります。策定された標準作業手順書（SOP）やガイドライン、研修活動、実用ツールは、技術的成果を日常の防災・危機管理業務へ確実に定着させるための強固な基盤となっています。」


Alush Beqiri氏
プロジェクトマネージャー
コソボ内務省危機管理庁（EMA）

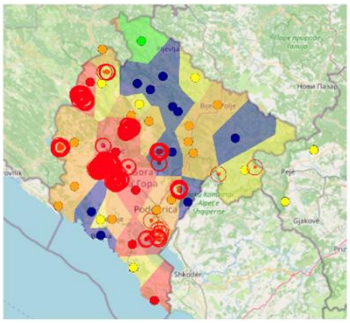
システム更新によるMEMHISの強化

今回のシステムアップデートにより、MEMHIS（モンテネグロマルチハザード情報システム）は災害情報管理・早期警戒・情報共有を円滑化する高度な新機能を備え、実践的なツールとして一層強化されました。

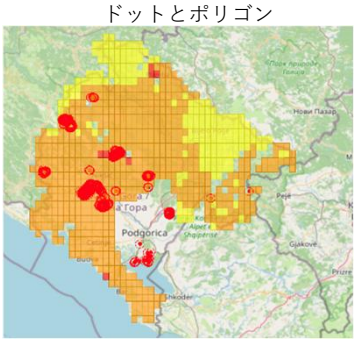
具体的な改善点として、登録ユーザーへのプッシュ通知による迅速な自動情報配信機能の実装や、MODISおよびVIIRS衛星データのリアルタイム処理能力の向上が挙げられます。これにより、進行中の火災情報へ迅速かつ高精度にアクセスできるようになりました。

さらに、スマートフォンに最適化した一般公開ダッシュボードの開設により、市民への火災・早期警戒情報の即時提供を実現したほか、システム監視機能の強化によって稼働の安定性と障害の早期検知体制を確立しました。

また、統合リスクデータベースによりプラットフォーム上での直接的なリスク情報管理が可能となったほか、災害後被害評価（PDNA）機能を通じて市民からの被災報告を受け付ける仕組みも整備されました。UI刷新、運用ガイドラインの整備、管理者・ユーザー向け研修の実施とあわせ、関係機関が緊密に連携した災害対応を力強く支えています。



地域別 FWI（火災気象指数）
ドットとポリゴン



植生乾燥度マップ（VDM）

プロジェクト成果の概要

本プロジェクトを通じ、モンテネグロにおける災害リスク削減、環境保全、および生態系レジリエンスの強化に向けた多面的な活動を展開しました。主な成果として、MEMHIS（モンテネグロ・マルチハザード情報システム）の開発・更新をはじめ、ウルチン（Ulcinj）における海岸林再生と「モンテネグロ・日本遊歩道」の整備、コラシン（Kolašin）における火災跡地植生回復（PFVR）、両地域の学校と連携した環境防災教育の推進、関係機関・実務者を対象とした研修の実施が挙げられます。あわせて、手法・ガイドライン・標準作業手順書（SOP）を策定し、事業完了後の持続的な運用体制を確立しました。



モンテネグロ・日本遊歩道(ウルチン)

（モンテネグロ）プロジェクトダイレクターからのメッセージ

「本JICAプロジェクトは、モンテネグロにおける災害リスク削減能力、とりわけ森林火災の予防・管理体制を強化する上で極めて重要な節目となりました。日本とモンテネグロの緊密な連携のもと、先進的な情報システムの構築、組織・実務能力の向上、関係機関の連携強化、そして生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の実践的施策を力強く推進してきました。

森林火災情報システムから、洪水と地震を含むマルチハザード情報システム（MEMHIS）への発展的拡張は、今後のモンテネグロにおける迅速な意思決定と緊急対応を継続的に支える中核的成果です。事業の円滑な遂行にご尽力いただいたJICA、日本の専門家の皆様、ならびに関係機関・パートナー各位に深く敬意と感謝を表します。本プロジェクトを通じて培われた知見、ツール、そして信頼の絆が、自然災害に対するモンテネグロの強靭性（レジリエンス）を高める揺るぎない礎となることを確信しています。」



Ljuban TMUSIC氏
プロジェクトディレクター
モンテネグロ内務省保護救助局（RPD）

フォローしてください！

Japan International Cooperation Agency (JICA)

Ministry of Interior (MI) - Rescue and Protection Directorate (RPD)

Ministry of Internal Affairs (MIA) - Emergency Management Agency (EMA)

プロジェクト Facebook
https://www.facebook.com/WestBalkanNFFISandEcoDRRProject